

特集 *Essential Academic Skills for University Research* の刊行を記念して

巻頭言

岩 熊 典 乃

この特集では、大阪公立大学大学院経済学研究科のジャスティン・アウケマ准教授が2023年に上梓された *Essential Academic Skills for University Research: A Historical Studies Perspective* という著作を取り上げ、合評する。本書は初年次教育を想定した教科書であり、大学で学ぶうえでの基礎的なアカデミック・スキルを養うこと、そして（著者の専門である）歴史研究の基本的手法を身につけることを目的としている。それゆえ本書の主軸は人文科学におかれているが、本書で目指されている教育は、理系と文系の学生が学部の垣根を越えて共同で学ぶという本学独自の初年次教育の取り組みを反映して、自然科学や社会科学も含めた幅広い分野を想定している。特に第二部で展開される、科学という営みが不可避免的に被る「バイアス」や科学知の歴史性に関する考察は、あらゆる学問分野にたずさわる者が心得ておかねばならない事柄であろう。

2023年12月23日に、主に経済史・経済思想分野の教員を中心とする「大阪公立大学政治経済学研究会」にて、アウケマ氏に本書の刊行背景と利用方法について報告していただき、全体で議論を行った。そこではデジタル化されていない図書や資料を敬遠しがちな学生に、それらを利用すると適切な情報を得られることをどのように体験してもらうか、学生各々が素朴で身近な関心をアカデミックな問いへと練り上げるうえでどのような手助けが必要なのか、批判的に思考するとはどのようなことか、またそれをどのように教育するか、といったことが議論となった。とくに、批判的に思考するという論点はあらゆる学問分野において重要だろう。この点について、アウケマ氏は、単なる実証主義にも陥らず、同時に安易な相対主義をも回避しうるような思考の教育を目指していると述べていた。このような粘り強い思考の訓練は、生成系AIがますます社会に浸透しつつある状況にあって、いっそう重要になってきているといえるだろう。

本特集およびアウケマ氏の新著が、初年次教育のあり方を再検討し、さらに発展させていく機会となることを願っている。